

SORA

Travel

web magazine 2019.aug. vol.116

Anilao Philippines

MAP
CLICK!

Photo & Story : Kyu Furumi

Concentrate to Macro shooting!



tsumi-shima tsumishima.com
ダイバーの夢をつみあげていく島



(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp

© 2019
World Tour Planners Co., Ltd.
All Rights Reserved.



ここは生物の箱庭。垂涎のマックダイブ

観光客や地元の人々で賑わうマニラ空港から、送迎車に乗り込みアニラオを目指す。ドライバーのあんちゃんに「時間はどのくらいかりますか？」と聞いてみたら、「だいたい2時間半くらいで着きますよ」とのこと。朝早いフライトだったので、そのくらい時間がある方がうれしい。案の定車内でも即眠りに落ちて、気がついたらパシフィコ・アズール・リゾートに到着していた。あっという間に着いてしまった感覚だ。この日はカメラのセットアップと、リゾート周辺の夕景を撮影して終了。明日からのダイビングが楽しみだ。

明けて翌日、空は鉛色だが穏やかな海。ガイドのジェイソンと共にバンカーボートに乗り込み海へ。初日はリゾート沿岸、バタンガス湾に並ぶダイブサイトを潜り、マクロを中心に撮影していくという段取りだ。このエリアは基本的にはどこも似たような地形で、泥っぽい砂地のスロープがなだらかに深度を落としていく形になるらしい。いわゆるマックダイブと言うやつだ。ゆっくり潜れそうな感じがする。僕らを乗せたバンカーボートは沿岸を左手に見ながら進む。やたらと建物が多いなあと思っていたら、このほとんどがダイビングリゾートなのだとか。数にすると100軒はあるんじゃないかということだ。アニラオはマニラ在住のフィリピンダイバーには一泊や二泊でも訪れることができる、人気の近場の海という感じなのか。関東圏で言うと大瀬崎のような感覚なのかな。20分ほど走ったところで最初のポイント「Haideie Point」へ到着。ブリーフィングの通り、エントリー直後から一面の砂泥底が続く。大きな根などはあまりないものの、所々に大きなイソギンチャクなどがあり、その周りをみるとイシモチ系の魚や、クリーナーシュリンプがワラワラと着いている。こういうところに生物が隠れていることが多いので、自分で何かを探すのも楽チンだ。ここではミジンペニハゼもたくさん発見。たしかにマクロに集中しやすい環境で、どんどん被写体を見つけることができる。お次の「Secret Bay」では小ぶりのミミックオクトパスやニシキフウライウオなどの人気どころが登場。非常に撮影効率が良く、絵作りがしやすい環境が多い印象だ。



Anilao
Philippines
フィリピン・アニオラ



Anilao

Philippines

フィリピン・アニオラ



ランチ休憩をはさんで「Ronald's Point」ではガイドのジェイソンが「ミナミハナйкаを探してみましょう。小さいからなかなか見つけ難いんだけど」と笑いながら話していたが、潜水開始5分であっさり発見。可愛いミナミハナйкаが海底をもそもそと徘徊しながら、アミエビをむしゃむしゃ食べる姿に夢中になっていた。時間を忘れて撮影していると、ジェイソンがこっちこっち!と呼びに来た。「ああ、ごめんごめん!」と着いていくと、そこには立派な角を持ったツノカサゴが大小で二匹。いや〜本当に被写体は尽きることがない。日中最後のダイビングは「Koala」へ。なんだか可愛い名前のポイントだが、ここではひたすらウミウシ・ウミウシ・ウミウシ。極小のミノウミウシから立派なニシキウミウシまでじっくりと堪能した。気がついてみれば本当にマクロ集中ダイビング。こんなにもマクロに集中したのは久しぶりだ。いや〜アニオラの人気の秘密がわずか一日でわかってしまったなあ。



夜の海。魍魎との戯れ

パシフィックブルーの益田さんの勧めもあり、ナイトダイビングにも繰り出した。無類のナイトダイブ好きとしては願ってもない提案だ。日没と共にガイドのジェイソンと船に乗り込み、湾最奥のポイント「Anilao」へ。同じような砂泥底ではあるが、先ほどまでのポイントに比べてアマモ系の短い海草類が多い印象。内湾に入り込んで来た証拠だろうか。これらをつぶさに観察していくと、セダカカワハギが葉をくわえて眠っている姿をたくさん確認した。米粒ほどの大きさのものから、親指の爪くらい。大小様々なセダカカワハギが、日中の疲れを癒すようにぐっすり眠っている姿に萌える。ジェイソンがライトをチラチラと点滅させ、萌え萌えぼけぼけしている僕を呼ぶ。立派な貝殻を背負ったココナッツオクトパス、着底して眠っているコバンザメ。オコゼ系の幼魚などなど次から次へと夜の生き物たちが僕の目の前に現れた。やっぱり夜の海は面白いなあと思っていると、僕のすぐ脇にチョキッとヘンテコな生き物が顔を出していることに気がついた。これが噂のポビット・ワーム。砂に隠れていながら上方を見張り、頭上を通る魚などをバクッと一飲みにしてしまうという最強のゴカイの仲間だ。これ見たかったんだよね。

Anilao
Philippines
フィリピン・アニオラ





夜の徘徊も存分に楽しみポートに戻って来たところで、同乗していた他のゲストが何やら中層で撮影をしている。大型の水中ライトを沈めてプランクトンを集めながら、面白い生き物を探す、「Born Fire」と呼ばれるダイビングスタイル。いわゆるライトトラップなどと呼ばれているダイビングだ。益田さん曰く、アニオラの周辺は水底が数100メートルまで一気に落ち込むため、深海から面白い生物が浅瀬に上がってくることも良くあるのだという。光に吸い寄せられるプランクトンのように、僕もすっかりそこに便乗し恐る恐るライトの先を覗いてみると、いるわいるわヘンテコ生物。カレイの仲間の幼魚や、イセエビ系の幼生、イカやタコの頭足類の類もいっぱい。10分にも満たないわずかな時間だったが、数々の生物を発見。これは人気が出る訳だ。次回はこの「Born Fire」でも一本を費やしてみたいと思った。

群れもサンゴも絶品です

Anilao
Philippines
フィリピン・アニオラ

A close-up photograph of three large, green, mushroom-shaped sea anemones (likely *Stylocordylus* species) growing on a diverse coral reef. The anemones have thick, green, columnar stalks and large, flat, green oral discs covered in numerous small, white, circular tentacles. They are surrounded by a variety of other marine life, including colorful corals, sponges, and smaller anemones, creating a rich and textured underwater environment.

Nudies Collection

実はジェイソンが無類のウミウシ好きだったようで、紹介してくれる生物の半分くらいがウミウシ。僕はそこまでウミウシに偏愛を注いではいないのだが、改めて写真を見直しているとやはりかわいい。海藻の上にひっそりと存在する極小ウミウシや、カヤ類に寄生する物、ホヤの飴玉を頬張っているようなリュウグウウミウシなど、ちょっとだけ夢中になってしまった。



Anilao
Philippines
フィリピン・アニオラ



tsumi-shima
タジマの島をつみあげていく島





Anilao Philippines フィリピン・アニオラ



アニオラきゅう的雑感

今回、実は初めてアニオラにやって来たのだが、まずマニラから車で数時間の移動であっさりついてしまうことに驚いた。あれ?もう着いたの?と正直思ってしまうほどアクセスは良い。そしてマクロ好きの人が集まる海として聞いていたアニオラの海は噂通り、マクロ三昧で存分に楽しむことができた。基本的には砂泥のスロープで一見すると被写体も少なそうではあるが、ポイントの要所を抑えるとアレやコレやと生物が見つかる。深場から浅瀬まで時間をかけて撮影に没頭できるフィールドだ。マニラ在住のフィリピン人ダイバーや、アジア圏からも注目を集めているというのも納得の環境。もっともっと人気が出て来そうな最高級の海外近場フォトフィールドになるのではないのでしょうか。いや〜楽しかった!

